

## 2019 年度実施概要

## 学校名

山形県立加茂水産高等学校

## 採択活動名

庄内の海洋文化と加茂水族館に対応したプログラム開発Ⅱ

## 取り組みの概要

## 庄内の海洋文化

水産海洋基礎 1年海洋技術科 13名

3年課題研究「北前船と加茂地区の海洋文化」のおおよそのまとめができた11月に実施。第3節海と食生活・文化・社会を11月実施に変更し、加茂地区の海洋文化についてグループ討議させ、北前船の名前が出てきたところで、「北前船とは何か」・「なぜ加茂港に北前船が入港したのか」・「北前船が加茂地区にもたらしたもの」について考えさせ、調査資料を基に説明した。ほとんどの生徒が現在加茂地区にある水産関係機関や漁業の繁栄が北前船によってもたらされたものであるとは知らなかった。加茂地区の活性化については、時間不足で具体的な意見がまとまらなかった。しかし、北前船や北洋漁業がもたらした繁栄により、加茂地区が栄えていた事実や史跡等には興味を示し、地元理解につながった。

課題研究「北前船と加茂地区の海洋文化」 3年海洋技術科 3名

加茂港が日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間—北前船寄港地・船主集落」に追加認定された事を受けて、加茂地区と北前船との関係を調べることにした。そして、北前船により多くの文化や現在の加茂地区の礎になっていることがわかった。加茂地区と北前船を結びつける資料の多くは、郷土史研究家升川繁敏先生が収集したもので、講義もしていただき、理解を深めることができた。また、海洋教育こどもサミットや全国海洋教育サミットでもポスター発表を行うことができた。

新加茂水族館に対応したプログラム開発Ⅱ 3年海洋資源科アクアライフ系 13名

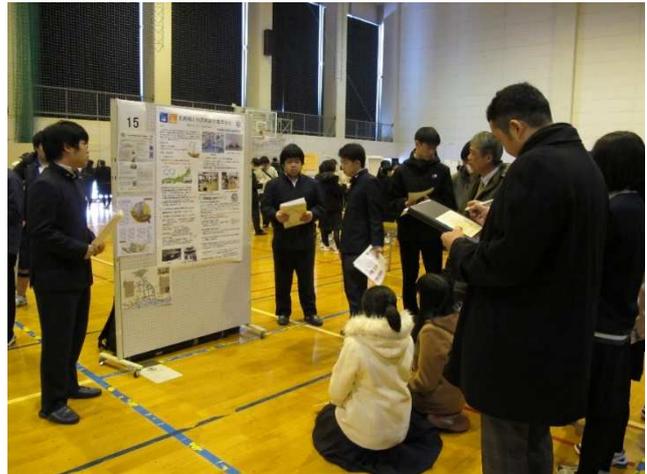
新加茂水族館はクラゲ展示に特化し来場者が非常に多く5月から9月に関しては、水族館の職員からの協力を得て実習を行うのは難しい状況にある。水族館学概論では、水族の採集・調査・飼育法、飼育用水と設備、水槽のレイアウトと展示方法、水族館資料と解説（水族館ガイド）を学んだ。特にボランティアガイドのためのガイドブックが加茂水族館より発刊され、それを基に生徒による水族館ガイドを試みた。夏休みに水族館で中長期インターンシップに参加した2名が模擬ガイドを行い、他の生徒は魚種の調べ学習と黒板を水槽に見立てて練習を行い担当する魚種について説明ガイドを行い想定質問に対する返答まで行った。最後に水族館施設にて本校生同士でガイドしあったが一般客にも質問されより実践に近いガイドが行えた。

## 活動中の写真

デジタルデータにて2～3枚の添付をお願いします。

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1.



庄内の海洋文化



加茂水族館に対応したプログラム開発Ⅱ